

令和7年度 第2回松江市スポーツ推進審議会 会議録

1 日 時 令和7年11月7日（金） 13時30分～15時00分

2 場 所 松江市役所 第一常任委員会室

3 出席者

(1) 委員（10名）

松浦会長、西村副会長、安部委員、上田委員、高梨委員、福田委員、星委員、三島委員、山縣委員、湯町委員

(2) 事務局

松江市 文化スポーツ部 桑原部長

スポーツ振興課 佐々木課長、伊佐調整官、山尾係長、三原、昌子、江戸

4 次 第

1 開会

2 委員紹介

3 あいさつ

4 報告

(1) 島根かみあり国スポ・全スポ内定

(2) 松江市スポーツ推進計画の令和7年度事業について

5 議事

(1) 松江市スポーツ推進計画の令和8年度事業について

①こどもへのスポーツ体験の提供

②身近な場所で取り組めるスポーツの推進

(2) その他

6 事務連絡

7 閉会

5 議事等の要旨

(1) 報告

松江市スポーツ推進計画の令和7年度の取組について、事務局から報告を行った。

(2) 議事

第3期スポーツ推進計画に基づく今後の具体的取組について、事務局から説明の後、委員から意見聴取を行った。

6 会議経過 別紙のとおり

7 所管課 松江市文化スポーツ部スポーツ振興課（電話 0852-55-5296）

会議経過

[13時30分 開会]

1 開会

○事務局（山尾係長）

ただいまより、令和7年度第2回松江市スポーツ推進審議会を開催いたします。本日、議事に入るまで進行を務めさせていただきます、スポーツ振興課の山尾と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

本日の審議会でございますが、会議は公開の会議とさせていただいております。前もって報道機関を初め、一般市民の方も傍聴可能となりますことをお知らせしておりますので、あらかじめご承知おきください。なお、会議は、概ね90分程度の15時を終了予定としておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは次第に従いまして進めさせていただきます。

2 委員紹介

○事務局（山尾係長）

令和7年度第2回松江市スポーツ推進審議会委員名簿をご覧ください。

この度、株式会社日本政策投資銀行前松江事務所長の白水様に代わり、同じく株式会社日本政策投資銀行松江事務所長の星憲太郎様を委員として委嘱しております。よろしくお願ひいたします。なお、星委員の任期につきましては、前任の白水委員の残任期間となっておりますので、他の委員の皆様と同じ令和8年の8月28日までとなっております。

出席の状況でございますけれども、本日は、一般社団法人松江観光協会の大塚委員、松江レクリエーション団体連合会の坂元委員、山陰中央テレビジョン放送株式会社の森山委員が所用のためご欠席でございまして、委員総数13名中10名の出席となっております。

3 あいさつ

○事務局（山尾係長）

それでは、松江市文化スポーツ部長の桑原賢司よりご挨拶を申し上げます。

○桑原部長

文化スポーツ部長の桑原でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。本日は大変お忙しい中、本年度2回目のスポーツ推進審議会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。また平素からのスポーツ行政の推進につきまして格別のご理解とご協力いただ

いておりますことを重ねてお礼申し上げます。

今年6月に行いました第1回目の審議会の後のスポーツに関するトピックにつきましてご報告を申し上げますと、まず7月28日から松江市総合体育館と鹿島総合体育館で全国高校総体が開催され熱戦が繰り広げられました。その後8月に入ってからは松江市総合体育館の改修工事が始まったところでございます。長期間の工事になりますことから市民の皆様には大変ご迷惑おかけしているところでございますけれども、島根スサノオマジックのBプレミア参入に向けて、エンターテイメント性溢れるアリーナとして市民の皆様にも楽しんでお使いいただけるようしっかりと進めて参りたいと思っております。また、中海スポーツパークの整備を進めておりましたが、整備工事が完了いたしました。今月の29日にはオープニングイベントを開催いたします。ナイター設備を備えたこの施設が、地域スポーツのさらなる活性化に繋がることを期待いたしますとともに、関係団体と連携して、利用促進を図って参りたいと考えております。12月7日には、国宝松江城マラソンが開催されます。昨年度大変高評価をいただきしておりますが、今年は4900人を上回る方に参加をいただくこととなっております。参加者の皆様の心に残るよい大会にできるように取り組みを進めて参りたいと考えております。

本日は第1回の審議会で皆様からご意見をいただきました、こどもへのスポーツ体験の提供、身近な場所でのスポーツの取り組み、この2つのテーマにつきまして、いただきましたご意見を参考に、次年度事業として具体化し、お示しをさせていただきたいと思っております。ご審議いただき忌憚のないご意見をいただけたらと存じております。

本市におけるスポーツの存在感を一層高められるように取り組んで参りますので、引き続きのご協力をお願い申し上げまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

○事務局（山尾係長）

ここから進行を松浦会長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

○松浦会長

議事進行を務めさせていただきます。今日は若干欠員ご欠席の方もあるようでございますけれども、内容の濃い会ができますことを願っておるところでございます。

ここ数日、天候にも恵まれまして、観光客の方が非常に多くいらっしゃいます。私もなるべく朝テレビで「ばけばけ」を見るようにしておりますけれども、今まででは平穏な流れでしたが、いよいよ真髓に迫ったかなという気がしているところでございます。ヘルン旧居の近辺には、大変たくさん的人がお越しいただいて、にぎわっているところでございます。改めてテレビの凄さ、そして松江のよさがこれで、全国に広がっていくのではないかと期待しているのは私だけではないと思います。

皆様方と一緒にスポーツに関する事を議論するのは、大変ありがたいことだなと思つ

ております。忌憚のないご意見をいただきまして、実のある会議したいと思っていますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

4 報告

○松浦会長

それでは、議事を進めさせていただきます。報告（1）島根かみあり国スポ・全スポ 2030 年内定について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（佐々木課長）

失礼いたします。スポーツ振興課長を務めております佐々木と申します。よろしくお願いいたします。

資料 1 をご覧ください。島根かみあり国スポ・全スポについてですけれども、令和 7 年 7 月 16 日に日本スポーツ協会の理事会で、正式に島根県での開催が内定をしたところでございます。

こちらの資料をご覧いただきますと松江市のところに、それぞれの競技を記載しておりますけれども、国スポの正式競技としては、11 種目ございまして、水泳、テニス、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、ハンドボール、ソフトテニス、卓球、バドミントン、ライフル射撃、それと特別競技として、高校野球の軟式野球、公開競技として武術太極拳の開催が決まっております。全スポといたしましては、水泳、フライングディスク、車椅子バスケットボール、卓球・サウンドテーブルテニス、バスケットボール、バレーボールの 6 競技ということで開催することが内定しているところでございます。

全体を見ていただくとわかりますが、やはり松江市と出雲市で全競技の大体 3 分の 2 程度が開催されることになっております。今後、松江市といたしましては、年明けを目指に準備委員会の立ち上げを考えておりまして、そういった中でいろいろな皆さんにお集まりいただきながら、2030 年に向けて、様々な準備を進めて参りたいと思っているところでございます。

スポーツ推進計画におきましては、重点施策として、「島根かみあり国スポ・全スポに向けた取組みの推進」ということを掲げさせていただいておりますので、今後準備委員会を立ち上げる中で、様々な活動方針が出てくると思いますのでそういった中でひとつひとつ目標を定めながら、市民の皆さんにも、喜んでいただけるようなよい大会にできるように進めていきたいと思っております。

島根かみあり国スポ・全スポの報告は以上となります。

○松浦会長

ただいま説明ございましたが何かご質問、ご意見があればどうぞ。

(発言する者なし)

○松浦会長

ないようでございますので、次に進みます。

続いて（2）松江市スポーツ推進計画の令和7年度事業について報告をお願いします。

○事務局（佐々木課長）

資料2をご覧ください。

推進計画の実施計画ということで具体的に令和7年度に実施しているものと、令和8年度に予定しているものを添えさせていただいております。この中から、今年度行っております主な事業について、何点か説明をさせていただきます。

資料3をご覧ください。

全国高等学校総合体育大会の男子バレーボール競技大会の開催報告でございます。7月28日から8月1日にかけて、高校総体男子バレーボール競技を開催いたしました。ページをおめくりいただきますと結果が出ておりますけれども、熊本県の鎮西高校が優勝しております。30年前に高校総体の男子バレーボール競技が松江市で開催されているのですけれども、その時も鎮西高校が優勝しておりまして、ご縁があるなというようなお話が出ていたところでございます。資料の中に来場者という記載がありますけれども、チーム関係者としては950名、観覧者総数としては4万人ということで、非常に多くの観客が見に来ていただいたと思っております。地元の高校生が大会スタッフとして非常に活躍していただきまして、運営やおもてなしから試合のサポートまでいろいろなことをしていただいて、無事に成功することができました。余談ですけれども、鎮西高校の男子バレーボール部というのはすごく人気がありまして、試合終了後には何百人の女性ファンが選手を追いかけて会場を埋め尽くしまして、選手がバスに乗るまでにスタッフが整理をしなければならないくらい、アイドル並みの人気で、今のスポーツ界はすごいなというふうに思ったところでございます。

続きまして資料4ですが、松江スポーツコミッショナの活動報告でございます。令和6年度末にスポーツコミッショナを設立しまして、推進計画の方にも記載しておりますが、こちらの主な活動についてご報告をさせていただきます。

まず1つ目、大会支援事業については、7月11日から13日に松江市総合体育館で八幡カップという全国シニアバスケットボール大会が開催されました。これは40代、50代、60代以上の選手、全国から約1000名の皆さんが出場して、バスケットを競うとともに観光も含めていろいろ楽しんでいただいたというものです。この大会の際に、松江スポーツコミッショナとして、観光PRブースやフォトスポットの出展をしたり、若武者隊の方にも来ていただいたりして、おもてなしをさせていただいたところでございます。また、

おもてなしクーポンという松江の観光施設や飲食店の割引クーポンなどを作成いたしました。これを大会前からWebなどでお配りして、皆さんには来ていただいたときに活用していただくように取り組みをしたところです。主な利用実績としては、松江城天守にこのクーポンを使って約100人が登閣をされたということでした。このクーポンを知らずに登った方もいらっしゃいましたので、もう少し多くの方が登っていただいているのではないかと思いますが、来場者1000名の中で1割以上の方が、松江城に来ていただいたということで非常に効果があったのかなと思っています。続きまして、もう1つの大会としてインターハイ男子バレーボール競技大会も同じように、取り組みをさせていただいたところです。こちらにつきましては、先ほども申しましたが4万人を超える来場者ではあったんですけども、主な利用実績のところを見ていただくと、松江城のところは約20名程度ということになっておりまして、インターハイはやはり、高校生が勝負に来ていて親御さんも応援とかサポートに一生懸命で、あまり観光まではなかなかつながらないということがわかりました。先ほど申しました八幡カップというシニアの大会については、大会を楽しむと同時に地域を楽しむというような傾向などもわかることができたと思っております。大会支援事業については、このように取り組みをさせていただきました。

それから、交流ミーティングというものをさせていただいております。こちらはスポーツコミュニケーションに入っていたいっている皆さんあるいはスポーツに興味のある皆さんにお集まりいただきまして、そこでいろんなテーマについてワークショップをしたり、あるいは講演や事例発表をしていただいたりしております。夜には懇親会もして、スポーツ団体や経済の民間の事業者の皆さんなどいろいろな皆さんに横の繋がりをつくっていくということを行っております。松浦会長に登壇いただきてお話ししたり、スリッパ卓球の体験をしたり、非常に和やかに横の繋がりを作らせていただいているところでございます。次回の第5回の交流ミーティングは12月13日に、一畠電車を貸し切りまして島根スサノオマジックの応援に行くということを企画しているところでございます。電車の利用促進も含めまして、いろんな活動をしているところで、ご報告をさせていただきます。今後といたしましては、国宝松江城マラソンとレディースハーフマラソンの方でもおもてなしクーポンを配布するなど、取り組みを進めていきたいと思っております。

続きまして資料5ですが、部長からも話がございましたけれども、11月29日に、中海スポーツパークをオープンいたします。こちらの施設は、サッカーやラグビーができる人工芝の多目的広場が一面と、隣にクレー舗装のフットサルピッチが2面ございます。またクラブハウスと一緒に防災の倉庫なども管理をしているところです。照明もあるので夜間も使うことが可能で、現状松江市内には、人工芝のピッチが1つ、天然芝が2つということで、ようやく新たに人工芝の多目的広場ができましたので、積極的に利用の推進をしていこうと思っているところでございます。

続きまして、資料2に戻ります。

令和7年度に丸をついている事業が、これまでに取り組んできたものとなっております。

基本的には、継続した取り組みが多くなっているところでございますが、ご報告させていただきたいのが、3枚目 52番についてです。新規で、「スポーツツーリズムをテーマとした外国人観光誘客の促進」というものを記載しております。国宝松江城マラソンでは、今年から外国人の申し込みができる専用のサイトを作りまして、今回の大会には13カ国から48名の外国人の方にご参加をいただくことになりました。こういった中で外国人の皆さんにも利用促進していきたいと引き続き思っているところでございます。最後のページの84番をご覧ください。新規事業として、「一人や二人、親子で取り組めるスポーツ環境の整備」というものを記載させていただいております。こちらにつきましては今年の7月に、島根スサノオマジックさんの方から、バスケットゴールを2基、プロジェクトの中で寄贈いただいたところです。こちら東長江町の花冠の里と古志原の公園に、それぞれバスケットゴールを設置いただきまして、地元の皆さんのがご利用いただけるようになっているところでございます。

令和7年度に取り組んでいる事業につきましては以上となっております。

○松浦会長

以上で説明がすべて終わりましたが、何か今までのところでご質問ご意見があればどうぞ。山縣委員どうぞ。

○山縣委員

小さいお子さんがおられる方が親子で休日に運動をしたいんだけど、借りられる場所がない。卓球やバドミントンを親子でしたくても施設がなくて、山陰は雨が多いので雨天でもできるような施設があればいいのになっていうご意見を聞いて参りまして、確かに家族で何かしようかとなったときに、施設がどこもいっぱいだと聞きました。

あと、公民館のスポーツ事業などを推進と書いてありますが、今年いっぱい松江市の学習発表会が中止という話を聞きまして、みんなそれを励みに今まで練習してきたんですけど、なんか公民館のイベントはこれから盛んにするんじゃなくてやめるんだみたいな、今年いっぱいでもうないですかみたいな、ちょっとがっかりしているところですが、スポーツ推進するといいながら何かできないですかね。

○松浦会長

事務局どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

借りられる場所につきまして例えば、卓球だと総合運動公園の事務所の中に卓球ができるようなスペースが実はあります。もちろん利用料はかかりますが、このように空いている施設もあったりするものの知らなかつたり気づいてなかつたりすることもあると思います。

ホームページなど含めて、いかにわかりやすい情報を提供していくかが大切だと思っております。これから新しい施設を作りますというのは難しいところがありますので、既存の施設の中で、空き情報含めて皆さんにわかりやすい情報提供ができるようにホームページの整備などを通して、きちんとお伝えしていけるような形に進めていきたいと思っております。

○山縣委員

バドミントンを親子でちょっと集まってやろうと思っても、バドミントンが一番使えるところって矢田体育館なんんですけど、いっぱいです。休みのときは特に、もう本当に空きがなくて、運動したくともなかなか場所が取れないっていう声をよく聞きます。若い方で、子どもと一緒に運動したいって思っておられる方の気持ちを汲んでいただくと助かります。

○松浦会長

わかりました。ご意見として承ってお互いにまた協力しながら研究しながら良い方向に進めていきましょう。

三島さんどうぞ。

○三島委員

中海スポーツパークが完成したと聞いて、車で行かないとなかなか行けないところではありますが、せっかくすてきな施設ができたのでぜひPRして活用していただくように、情報発信の方をお願いしたいです。また、先ほどの山縣委員の話にも関係があるんですけど、施設を探すときにアプリとかみたいなものを使って空き情報がわかつたりするところまでは進んでないですか。今すぐっていうわけではないんですけど、議題もそういう流れになってきているので、そういうことも検討していただけたらなと思います。

○松浦会長

佐々木課長どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

中海スポーツパークについては、今の段階でもいろいろ問い合わせていただいておりまので、積極的に活用していただけるように我々も取り組んでいきたいと思っております。また、先ほどのアプリの話ですが、施設ごとにホームページもあって、そこを見ると空き状況がわかるところもあります。確かに一覧で見て、すぐわかるというところまではなかなかできていないというのが実情で、1つ1つの施設を見て、その時間が空いているか調べていただくような形になっていますので、おっしゃっていただいたようにそこは今後の検討課題とさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○松浦会長

今中海スポーツパークの話が出ましたが、ここへ至るまでには大変なご尽力をいただいている。1回できそうだったんだけれどもだめになって、そういうことが何回かここ数年の間に繰り返されて、やっとああいう形で完成できたということは、行政側がいろいろなルートをたどりながら作っていただいたということで、私どもとしては感謝申し上げ、利用には最大限協力したいと思っています。なかなか1つの施設作るのに、自費ではできないので、いろいろなところから予算を引っ張ってきたり、ネットワークを活用したり、それが行政の皆さん之力だと思っていますけれども、この会としては、施設を作っていただいたので利用に大いに協力しましょうという話でいかがでしょうか。

(頷く者あり)

○松浦会長

はい。ありがとうございます。他にはございませんか。安部さんどうぞ。

○安部委員

松江市障害者スポーツ協会の安部です。

今施設の話が出ましたけど、公民館の利用状況を見たところ、ホームページに載っているのは6ヶ所ぐらいしかなかったです。他の公民館もホームページに掲載できないのかなどというふうに思いました。それから、最近、視覚障害者の何名か、ボランティアで同行援護ができる方が非常に少なくて、出かけたくても人探しが大変ですので、そういったところにアイデアがないのかなと思うのですけれどもいかがでしょうか。

○松浦会長

事務局さんどうぞ。

○事務局（佐々木課長）

それは、付き添いをできる方がなかなかいないということでしょうか。

○安部委員

そうです。まず、移動手段の問題です。制度を詳しく知らないんですけれども、同行援護だと援護者の車を使えないという話を聞きました。ですので、同行援護の方はタクシーやバスで移動しなきゃいけないことがあるんだそうです。調べてないので違っているかもしれません。それと、私が同行援護する場合ですと、私の体が空かないとどうしようもないです。知り合いの方も何名かいらっしゃいますけどもその方もやっぱり勤めてらっしゃるので、いつでもというわけにはいかないという実態がございます。

○松浦会長

はいありがとうございます。何かコメントがあればどうぞ。

○事務局（佐々木課長）

ありがとうございます。そのあたりのことについては、障がい者福祉課とも連携をして、どういったサービスがあるのかも含めて、確認をしながら検討していきたいと思います。

○安部委員

同行援護というと単に買い物に行くこととかに捉えられがちなんんですけども、スポーツをする上においても、指導してもらえる方が非常に少ないので、障がい者に対して対応できるような指導者の方を発掘、あるいは育成して欲しいなということを思っています。

○松浦会長

はい。ありがとうございました。

今のお話は、いろいろなことを条件整備をしながら、受け側とそれから奉仕する側とのマッチングをどうするかという部分になろうかと思ってます。今日はスポーツ推進審議会ということで、スポーツの一端を担うという話で、今の意見をお伺いしたということにさせてください。もし何か提案があればまたお願ひさせてください。

事務局どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

今何ができるかというところは出てこないんですけども、今いただいたお話も含めて、何ができるかというところは検討していきたいと思っております。はい。ありがとうございます。

○松浦会長

他にご意見はございますか。

ないようですので、今の報告についてはここで一旦区切りをさせていただきます。

5 議事

○松浦会長

議事（1）松江市スポーツ推進計画の令和8年度の事業について、説明をお願いします。

○事務局（佐々木課長）

はい。まず、1つ目のところでございますけれども、こどもへのスポーツ体験の提供とい

うところでございます。前回会議からこのこどもへのスポーツ体験の提供ということでお話をさせていただいておりました。皆様方からの第1回のご意見なども踏まえながら我々の方で案を作つてみたので、皆さん方にもお示しをさせていただいてご議論いただければと思っております。

スポーツ推進計画の実施計画の中で言いますと、資料2の10番になりますけれども、こどもへのスポーツ体験の提供という部門について、2種類の案を作成しました。

1つ目が、昔遊び体験会です。目的としましては、様々な昔遊びを体験することによって、こどもの運動機会の確保と基礎的な運動能力の獲得を目指すとともに、地域とのつながりづくりを目指すということにしております。昔と生活体系が変わってきておりまして、蛇口をひねって水が出たのが今は手をかざすだけで水が出る。そうするとひねる動作を使わなくなってしまったとか、他にも、バリアフリーの時代で、ちょっとしたつまずきがあったら転んでしまうとか。この間、教育委員会の方に話をしたら、こどもの中の事故で、歯を折る事故が多いそうなんです。要は転んだときに手が出なくて顔面からぶつかってしまう。そういうような風潮になってきているというお話も伺いましたので、我々としましては、スポーツというよりも、駒をまわして手をひねるとかけん玉や竹馬によってバランスを取るとか、そういう昔の遊びを通して基本的な運動能力を培つていけたらいいのではないかという思いの中で考えさせてもらったものです。この昔遊びについては、基本的に保育所や幼稚園のお子さんを対象にしながら事業ができればいいのではないかと思っています。

地域体育協会さんや、高齢者クラブさん、健康まつえ21推進隊さん、保育所さんの方にヒアリングに行かせていただいたところでございます。ヒアリングの主な内容としては、お子さんたちは、最近ゲームとかをすることが多く自分でいろいろな考えを持って遊ぶことが少なくなってきた中で、昔遊びっていうのは人と接しながら、自分たちで考えながら遊びができるようになっていくので、ぜひやったほうがいいじゃないかというご意見をいただきたり、例えば地域体協さんからは、日中働いている方もいらっしゃるんで、なかなか自分たちだけで指導することは難しいかもしれないけれども、公民館とか高齢者クラブの皆さんなどと協力してやっていくと良いのではないかというようなご意見もいただいたところです。あと、高齢者クラブさんにお話を伺ったところでは、高齢者クラブさんは地区によって活動していらっしゃいますけど、すでに持田地区さんなどは直接学校に行って体験活動をやっていらっしゃったりっていうところもありますので、指導者として参加することは可能なのではないかというお話などもいただきました。また保育所さんの方からは、保育所と地域との関わりは本当に地域差が大きいようで、交流があるところもあれば全く交流もないところも多いので、地元の方とかに遊びに来ていただいて昔の遊びを教えてくれるっていうのはすごく面白いんじゃないかなっていうようなご意見ですとか、そういうふた地域の方が何度か来てくれるところの成長なんかも感じることができて、それが喜びに繋がっていくのではないかというようなご意見などもいただいたところです。

そういうふたご意見などをいただきながら、事業の概要を作成させていただきました。

対象となるのは、保育園児と幼稚園児、幼保園児になります。指導者としては、地域団体ということで、地域体育協会さんですとか高齢者クラブさんなどを想定をしております。会場は、保育所、幼稚園、認定こども園などでこちらから出向いていって、体験会をするというふうに考えているところです。どこか1か所に集めてやるという方法もあるかとは思いますけれども、以前もこの会の中で話にあがりましたが、行くとなると当然、親御さんが連れて行ってあげないといけない、行きたい人だけが参加するような形になりますので、そういうではなくてそこにいる子たちが誰もが平等に享受できるように、出向いて体験会をするという考え方で作っているものでございます。実施手順としては、地域によって人員的にすぐにできるところとなかなか難しいところがあるかと思いますので、手を挙げていただいた地域の団体さんと保育所等でマッチングしながら、できるところから実施をしていきたいと思っているところです。また、この事業概要には書いていないんですけども、基本的には実施をしていただいた皆さんに対しては当然必要な経費というものがかかると思っておりますので、その部分についてはしっかりと皆さんにお渡しをさせていただければと思っております。その財源につきましては先般からお話をさせていただいているスポーツ振興基金を活用して進めていきたいと思っております。

裏面になりますけれども、実施スケジュールでございます。令和8年度については、まずはモデル地区というのを作つて実施をしていきたいと思っております。やはり地区の規模によって、人数なども違う中で活動量なども地域によって本当に様々だと思っておりますので、まずは、やっていただけるところに実施していただきて、そこで出てきた課題なども整理しながら、令和9年からは本格的な事業開始をしていきたいと考えているところです。

課題としては、指導者の確保というのがまずあろうかと思います。地域の皆さんにお願いするということになると、地域体協さんなんかは普段仕事しながら、活動している方もいらっしゃるかと思いますので、そういった中でどれだけ指導者さんに出ていただけるかというところは今後の課題だと思っております。

もう1つは、学びの質というところもあろうかと思います。行ったはいいけど何をすればいいのかどういう指導をしたらいいのかっていうところは、困られるところもあるかと思います。

学びの質については、日本スポーツ協会に、アクティブチャイルドプログラムというものがありまして、その中で、運動遊びというものが示されておりますので、こういったものを活用したり、松江市の子育て部の保育士さんや大学の保育の専門の先生などにもご意見をいただきたり、保育学科の教科書なんかを活用したりしながら、メニューを作つてていきたいと思っています。

以上が1つ目の昔遊び体験になります。

それと、こどもへのスポーツの提供についてはもう1つございまして、資料7のスポーツ体験会というものでございます。

先ほどの昔遊びは未就学児が対象でしたけれども、このスポーツ体験会は、小学生の低学

年を対象にと考えております。

放課後こども教室とか児童クラブに通うお子さんを対象にしたものとして考えておりまして、地元のスポーツチームや民間の事業者さんが、放課後こども教室や児童クラブの小学生に対して、競技の体験会を開催していただくことで、子どもの運動機会や新しい競技体験の機会を確保するとともに、スポーツをするきっかけづくり、地域との繋がりづくりというものを目指していきたいと思っております。

考え方としては、各地区に、バスケとかサッカーとか野球とか子どものスポーツ少年チームがあると思いますけれど、そういうチームが放課後こども教室や児童クラブに出向いて、スポーツの体験会をしてもらうことができればと思っています。そうすることによって、子どもたちは自分たちの地区にこういうスポーツチームがあるんだっていうことを知ることができますし、片やスポーツチームの方は自分たちの地区の子どもたちを勧誘することにつながるかと思います。加えまして地元のスポーツチームだけではなく、民間の事業者さんの中でもいろんなスポーツ教室をやっていらっしゃったりするところもございますので、そういう皆さんのお力もお借りしながらやっていくことができればと思っているところです。

そういう考え方の中で、松江市スポーツ少年団、株式会社 SKSS、児童クラブの皆さんにヒアリングをさせていただいたところです。ヒアリングの主な内容としましては、スポーツ少年団の皆様からは、チームの人数を増やそうと思って体験会などをしても、なかなかお子さんがこられない。やはり会場に来てくれるお子さんは少ないので、自分たちから出向いて、こういったチームがあるんだよっていうことをお伝えする機会があるっていうのは非常にありがたいし自分たちもやってみたいという声もいただいております。また一方で、スポーツにもお金がかかってくる時代なので、きちんと謝礼っていうのをしっかりと確保したほうがいいのではないかというお話をいただいております。またスポーツの種目に特化せず、いろいろスポーツを体験できるような環境が大切だということのご意見をいただいております。児童クラブについては、いわゆる民間の児童クラブっていうのは学校の敷地とは少し離れたところにあることもありますので、そういうところの場合は会場の確保や移動が伴うことが課題ではないかというようなご意見もいただいたところでございます。

それらのご意見を踏まえて、事業概要ですが、対象としては小学生の低学年の放課後こども教室や児童クラブに通うお子さん。指導者は、地域のスポーツチーム、あるいは民間のスポーツ事業者のみなさん。会場につきましては、地域の小学校や教室、あるいはこども教室・児童クラブの周辺施設を考えております。実施手順といたしましては、スポーツ団体の皆さんにきちんと説明をした上で、各地域ごとにマッチングをして実施をしていくということにしております。昔の遊び体験会と同様に、報酬は、スポーツ振興基金の財源を使って確保していきたいと思っているところです。実施スケジュールにつきましては、令和8年度は、手を挙げていただいたチームからモデルのチームを選定し実施していただきながら、そ

こでいろいろな課題を整理して、令和9年度から事業実施をしていければと思っているところです。課題としては、会場の確保が一番かと思っております。近くに体育館等の会場がないところに対してどのように事業を行っていくのかというところ。あと、体験会を開催する団体についての考え方ですけれども、第一義的には地域でのつながりづくりを目的にしていきたいと思っておりますので、地域のスポーツチームというのを一番の候補として、ただ、その地域のスポーツチームでなかなか対応が難しかったり、スポーツチームがないような地区につきましては、民間の事業者さんにお願いをしながら、この順番でマッチングを行っていければというふうに考えております。

以上が2番のスポーツ体験会の説明でございます。

続きまして、身近な場所で取り組めるスポーツの推進についてです。資料2の15番、16番の項目の項目でございます。

まず1つが、身近な場所への距離表示です。こちらは市民の皆さんがあれに運動に取り組める環境を整備するために、市民の皆さんがあれやすい場所にウォーキングやジョギングの際の目安となる距離表示を実施するという内容です。すでに松江総合運動公園内の園路ですとか、今は工事中ですが、宍道湖の北岸については1キロのルートで距離表示をしているところですが、来年度に向けて、宍道湖の北岸、市役所前からしんじ湖ボウルに向かうまでの歩道が約3.5キロありますので、新たにジョギングコースとして距離表示をしていきたいと思っております。ここは信号のない一直線のコースなので、走るには最適ですし、宍道湖が眺められますので、夕日を見ながら走ることもできて環境としてもよいのではないかと思っております。こちらの3.5キロの距離表示について、次年度の実施を考えているところです。その他の場所については現在検討中です。

身近な場所でのスポーツの取組の2つ目として、ウォーキングマップの作成を考えております。こちらは市民の皆さんに身近な場所で利用されているようなウォーキングコースをわかりやすく整理して、多くの皆さんに活用いただけるようにホームページなどで紹介をしていきたいと思っております。ウォーキングコースについて、我々もいろいろ調べていたんですけども、健康まつえ21推進隊さんは各地区でウォーキング教室など頻繁に実施されているようなところもございまして、そういった皆さんに今利用されているコースやおすすめのコースなどを、アンケートなどを通じて教えていただきたいと思っております。それをホームページに掲載をして、皆さんに周知させていただくような形ができればと思っているところです。もうすでに作成されているウォーキングマップ、あるいはいろいろな行事で利用されているようなウォーキングコースというものを活用して、現地の距離表示とかにはこだわらず、マップ上の中で、距離や駐車場、話を伺うと大事なのがトイレだっていう話もありましたので、教えていただいたものをホームページで紹介するというものを令和8年度に取り組んでいきたいと思っております。新しいものを作っていくことも一つの方法だとは思うんですけども、今すでに皆さんを利用されているものを、きちんと多くの皆さんにお伝えして活用していただくということが、やりやすい方法なのかなとも思っ

ておりますので、こういった形で取り組みを進めていきたいと思っております。

我々が考えている、次年度に向けての取り組みは、以上でございます。その他のご意見とかご指摘などもあればお願いをいたします。

○松浦会長

はい。内容の大きな説明でございましたが、皆さんいかがですか。ご意見があればどうぞ。
はいどうぞ。高梨委員。

○高梨委員

スポーツ体験会の事業について 1 点お聞かせいただきたいんですけれども。現状、いろいろな地域にこどもたちのスポーツチームなどがあると思うんですけれども。地域によってはバレーボールのチームしかないとか、そういった格差が実際多少あると思うんです。どの程度地域ごとの違いがあるのかなというのは気になっているところでして。今回のヒアリングは、サービスを提供する側のヒアリングになっていると思うんですけれども、地域のお子さんや親御さんは、果たしてどういうニーズがあるのかというの私たちは私たちも気になるところで、もしかすると、自分が住んでいる地域には、この種目のチームしかないで、別の種目がやりたいっていうようなお子さんがもしかするというのかなというふうに感じています。

実際に松江市内でスポーツの格差というのが、どのくらいあるのかなという感覚も含めてですけどもお聞かせいただければなと思いました。

○事務局（佐々木課長）

はい。実際に各地区にどの競技団体のチームがそれぞれあるかっていうところまでは正直、我々も把握できていないのと、なかなか全体を把握するのが難しいというところはあります。そういう中で単純な話ですけれども、やはり大規模地区には多くのスポーツチームがあって、小規模地区にはあまりないかなっていうのとか、あるいは、合同チームになっているような地区などもありますので、おっしゃられるように各地区において、体験を提供できるスポーツチームが少ないところはあろうかと思いますし、仮にそこにスポーツチームがあったとしても、昼間に児童クラブ等に行ってやれるところがどれだけあるかは、若干難しいところもあるかと思っております。

ただ、児童クラブさんなどにもお邪魔してお話をさせていただいたときには、そういう体験会があればすごく喜ばれるっていうところがありましたので、あとは、提供できる範囲のものを提供させていただきながら、来年は実証実験という形ですけれどもその声を聞きながら、横展開じゃないですけれども、ある地区ではバレーボールチームがない、その隣にはバレーボールチームがある場合は、隣の地区にもチームに行ってもらったりいいじゃないかとか、そういう話が今後出てくるのであれば、それは進めていければとは思っておりま

す。

親御さんのニーズについても言及していただきましたけれども、親御さんのところまでヒアリングできていないというところが実情でございます。

○松浦会長

他にはいかがですか。

まだたくさんいろいろご意見あろうと思いますが、専門の先生がここにいらっしゃいますので、西村副会長から、今の計画についてお話をいただければと思うのですが、いかがでございますか。

○西村副会長

来年度取り組まれる事業として3つが中心的にあるということで非常にいい計画だと思います。

ニーズを掘り起こすことは難しいところだと思うんですけれども、モデルを作りながらそれを展開できるか。また、モデルを実施する中で、どういうところに課題があるのかというところをしっかりと把握できれば、令和9年に向けて活動が進めていけるんじゃないかなというふうに思います。

やっていく中で気になることは、「人」です。どういう方がいらっしゃるのかということ。民間の方も含めていかに掘り下げていくかということで、対応できる皆さんと実際のニーズというものをどうマッチングさせていくかというところが大きなポイントになるのかなと思っています。民間ベースでやられている方はもちろんんですけど、一般の方にお願いするときに我々専門の立場から気気になることは、先ほど活動の質という話も出てましたけれども、昨今残念ながらスポーツに絡んでいろいろな問題等も出てきますので、ハラスメント等の問題も含めて、簡単な研修や、可能であれば将来的には資格を持っていただいて、こどもさんたちに、良い体験活動を提供できるように活動していただく。将来的にはそういう資格を持っている方々が、きちんと有償で活動できるような環境に繋がっていくことを見据えてやっていけるといいのかなと思いました。

もう1つは保育園・幼稚園の年代のスポーツってやはり基本は遊びですよね。体を使っていろいろな形で遊ぶということが、彼らにとっての学びでもありますし、スポーツに発展していくものもあると思うんですけれども、やはり小学校・中学校年代になってくると、スポーツのイメージって競技性が強いイメージがあるような気がしていて、我々が大事にしたいのはもっと遊びが発展した、競技性というよりも日常の中で根づいてくる、日常生活で取り組み、身近な場所で取り組めるスポーツに近いようなイメージのものを、低年齢のときからイメージとして持ってもらうということが、大きな課題になるのかなと思っています。ですので、昔の遊び体験会やスポーツ体験会などの中でも、運動機会、競技体験機会って言ったときに、松江市としては、もちろん競技力向上はねらいとしてはありながらも、日常の

中で体を動かす活動、広い意味での身体活動としてのスポーツというものを広めていく、スポーツに対する考え方を変えていくような形の目的というものを盛り込んでおくと、皆さんももっと、スポーツ活動に取り組みやすくなると思いますし、身近な形でのスポーツというものをより積極的に取り組んでいただけるような機会を提供できるんじゃないかなと感じました。

○松浦会長

はい。ありがとうございました。皆さんいかがですかヒントをいただきました。

何かご質問、ご意見をいただきたいですが、いかがですか。

山縣委員どうぞ。

○山縣委員

この資料を見せていただいたときに、私たちが話し合ってきた内容をみんな取り込んでいろいろ変え考えていただいて、とってもありがたいなと思いました。

最初の昔の遊びですけど、私が子どものとき、いろいろな昔の遊びをしましたが、高齢者になったらできないことばかりで、子どものときはこんなことできていたんだよなと思うようなことが、よくあります。高齢者になると「こんなことしたよ」は言えるんですけど、自分は動けなくて指導できないんです。だから昔の遊び、私も昔はいろんなことして遊んだんですけど、見事にできません。「ケンケン」もできなければ、「ゴムとび」とかも全然できなくて、「こままわし」ぐらいはできるのかなと思ったり。資料を見て、私全部できないなと思いながら考えてみました。

あと、日本スポーツ協会や、保育学科のメニューと書いてありますが、このメニューをちゃんと指導できる人を探すんですか。それとも、育てるんですか。メニューっていうのは先ほど説明していただいた、遊びながらにして子どもの体力を向上させる、運動神経を良くするというようなメニューを考えてくれるんですか。

○松浦会長

佐々木課長どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

はい。ありがとうございます。難しく書いてありますが、アクティブチャイルドプログラムの中にどういったものが書いてあるかというと、「ケンパー」や、「体ジャンケン」、「手押し相撲」など、新しく何か皆さんが覚えて一生懸命勉強してやらないといけないというよりは、皆さんがわかっているものではあるんですね。ただわかっているものといっても、何もないままにこれやってくださいって言われても教えられる方がとても不安だと思いますので、こういう遊びですよというように解説がついている、そういうような認識でいいのかな

あと思います。

先ほど申し上げましたが、こままわしとか、竹馬とかでもいいですし、そういういた我々が小さい頃にやっていたような遊びをメニューに入れさせてもらってこのメニューの中から、皆さんのが希望されるものをピックアップして、保育所さんとお話をされて、やってみてくださいっていうような形で考えているところです。

○松浦会長

山縣委員どうぞ。

○山縣委員

もう内容を聞いただけでも「鬼ごっこ」も「ケンパー」もできません。高齢者クラブの方も、昔はできたけど今はできない人が多いと思うんですけど、指導者はどういう方がよろしいでしょうね。

○松浦会長

佐々木課長どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

はい。ありがとうございます。持田地区の高齢者クラブさんは、小学生と高齢者クラブさんで昔遊びをやって県から表彰を受けたりしたようなこともあります。先ほど申し上げたのは激しいメニューだったかもしれませんけれども、皆さんができるようなものもいろいろあるかと思っていますので、そういうものを選んでやっていただくのであればできるのかなと思っております。例えば「メンコ」なども想定していますので、そういうものを我々の中でもいろいろな方と相談して準備していきたいと思っています。

○松浦会長

いろいろ議論をいただきましてありがとうございました。こままわしができるっていうことは紐を巻くことができるということで、すごいじゃないですか。あれ難しいですよ。

○山縣委員

少し練習すればできると思います。

○松浦会長

そうですか。だから、皆さんも練習されれば、そういう対象の方も、やっぱり健康増進に繋がるんじゃないかな。

さて他にはいかがですかご意見どうぞ。湯町委員どうぞ。

○湯町委員

昔の遊びもスポーツ体験も、基本的なプログラムは示していただきながらということのようでございますけども。例えば実際こういった遊びにはこんな意味があるとかそういうようなことは、書面で伝えるのか、希望者を集めて講習会でも開かれるのか、そのあたりはどのように考えておられるかとということと、もう1つは、先ほど経費の話が出ましたけども、昔の遊びをするためのこまや竹馬など、そういった用具を、それぞれの地域で購入するのか、それとも市で購入されたものを貸し出すのか、どのように考えておられますでしょうか。

○松浦会長

佐々木課長どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

まず、講習というところですが、スポーツ体験の皆さんに対しては、基本的に指導者資格を持っていらっしゃる方を前提にさせていただきたいと思っております。当然、スポ少等で教えていらっしゃる方は資格があると思いますので、そういった皆さんに教えていただくということで内容の担保はしていきたいと思っております。そういった皆さんについては事前に説明会を実施して、内容についていろいろお話をさせていただこうと思っております。

昔遊び体験会の皆さんについては、講習とかまでは考えてはいませんでしたけれども、今おっしゃっていただいたように、こういう動きにはこういう意味があるんだよということがきちんと分かるように準備をさせていただきたいと思います。当然事前に説明会などはさせていただくことになりますので、そういったところでお話をさせていただいて、あとはやってみながら、必要に応じて講習会も考えていきたいと思っております。

それと道具の購入経費ですけれども、基本的には、市で購入をして貸与させていただくことを考えております。すでに保育所さんとかがお持ちでそこでできるものであればそうしていただければ一番いいんですけども、ない部分についてはこちらの方での購入を考えているところでございます。

○松浦会長

ありがとうございました。

三島委員どうぞ。

○三島委員

昔遊び体験会のことでの、指導者さんの高齢化が課題というお話がありましたけど、少し今ひらめいて、例えば、可能かどうかわからないんですけど、保育とか幼児教育を学んでら

っしゃる学生さんを巻き込んで、補助員のような形で、参加していただくこともできたらいいのかなって今ふと思いました。

○松浦会長

ひらめきをいただきました。

課長さんにお話しいただく前に、西村先生、いかがですか。

○西村副会長

島根大学でも幼児教育を学んでいる学生がいますし、県立大でも保育を学んでいる学生がいますので、積極的に出たいと思ってる学生は多くいると思います。ただ学生だけで何か企画をしてっていうのはまだ難しいようなので、お手伝いという形であれば、島根大学の学部ですと体験活動という卒業のために必要な時間数にもなったりしますし、県立大も同じような形の実習になるという話も聞いていますので、企画の部分をうまく立ち上げていただいて、学生とつないでいただければ、幼児や小中学生と関わる経験を積むことができると思いますので、そういう場があればありがたいと思っています。

○松浦会長

ありがとうございました。意見が出るとすぐ反応されて先生が回答されて、すごいですね。西村副会長にお話しいただいて、今日成果があつたんじゃないでしょうか。

○事務局（佐々木課長）

ありがとうございます。おっしゃっていただいた通りで、昔遊びのメニューを考える際には、県立大学の先生にもご相談させていただこうと思っていたところでした。西村先生にもお話をさせていただきながら、学生さんの力もお貸しいただければありがたいと思っておりますので、そのあたりも考えて参ります。ありがとうございます。

○松浦会長

他にはありますか。山縣委員どうぞ。

○山縣委員

今の話の続きで、説明だけをして、お手本を学生さんにしていただけるのであれば、私、参加します。口だけでよろしければ、頑張ります。

○松浦会長

もう参加希望者が現れました。

上田委員どうぞ。

○上田委員

実は昔の遊びは小学校低学年の教育課程の中にも入っていて、1年生が学習の中でもやるので、今の学生さんが小学校教員になったときに、できなくて困る分野の1つかなと思っています。その日1回やっても、できるものではないですね。

身近なところに置いてあって、休憩のときなどに、こままわしや竹馬をすることで、最終的にできるようになることが体力の向上に繋がるのかなと思っているので、ぜひ小学校課程の学生さんにも協力いただけだと良い内容になるのではないかなと思います。

それとスポーツ体験会についても実は、中体連の方では、部活動の地域展開が急務になつていて、今いる大人の指導者だけでは活動が難しいと思うので、若い学生さんがこどもを動かすことを、勉強してらっしゃるので、ぜひそういったところも活用しながら体験会をされると、人的には増えていくのかなと思いますが、西村先生いかがでしょうか。

○松浦会長

西村副会長どうぞ。

○西村副会長

まさにそうで、実は先日、大学で子どものテニス教室をやりまして、活動のベースになっているのは、陸上部が主催でやっている陸上教室ですが、そことセットでテニスの種目も入れようということと、体操の専任の先生もいるので、来月からは体操の遊びも試してやってみようということで活動しています。

学生が小学生に教えるのもそうなんですけれども、小さい子に教えることは自分の技術の見直しにも繋がるので、可能であれば、部活の地域展開に合わせて中高生にも参加してもらって、中学生に小学生の指導をしてもらう。高校生に小中学生の指導をしてもらう、そういうような機会も今後作っていければいいかなと思ってます。

徳島県の高校の部員が、10年ぐらいにわたって、地元の小学生向けにテニス教室をやっているという事例もありますし、九州でも同じように高校生が地元のこどもたちにテニスを教えるような活動もしているようですので、地域展開も絡んでくるかと思いますが、ぜひ、そのような形で、縦につながるような形の指導体系がつくれるといいかなというイメージは持っています。

○松浦会長

ありがとうございます。それぞれに専門の方がいらっしゃると、大変良いアドバイスをいただけて、非常にありがたいですね。

よく世代間交流という表現がずっと続いてきましたけれども、先ほどの話は、低年齢層、高校生ぐらいまでのところで交流をしていく、ということかなと思って聞いていましたけ

れども、ぜひそれは実現をしていただいて、いい形でスタートできればと思っております。課長がおっしゃるように今回は予算がございますので、安心して臨めると思っています。

他にいかがですか。福田委員どうぞ。

○福田委員

フルタイムで働いている若いお母さん、お父さん方でも、資格を持っているけど教員になつてないとか、資格を持っているけれどもなかなか指導する場がない。そういうた人もたくさんいらっしゃると思うんですね。こどもたちの昔の遊びをやっていく中で、高齢者や教育課程の学生さんを巻き込んで実施していくっていう方向で、すごく良いなと思って先ほどから聞いていました。先ほどの方々は、資格を持っていて更新をしているわけですね。レクリエーション団体連合会は毎年、会費を払って更新している。もう払うのも大変だからやめようかと思っている若いお母さん方もいらっしゃるようです。また、PTAの保護者の1人として、そういうことを学んできた若いお母さんもいらっしゃると思うので、そういうた方はそういう活動にも熱心に取り組んでいるようですし、先生方への理解度も高いんじゃないかなと思っています。

行政のみなさんには、こういった計画があることを、なるべくいろんな人に知つていただけるようにお願いしたいと思います。この審議会について、ホームページを見て知つている人もたくさんいらっしゃると思うのですが、なかなか浸透が難しい。こういう計画があるんだよとか、こういう方向でどうしたらいいんだろうねっていう話はなるべく人に話をするようにはしているんですけど。この計画が、うまく進んでいくといいな思います。

○松浦会長

ありがとうございます。いろいろご意見あるようでございますが、今日初めてお越しいただいた星委員にも、ご挨拶を兼ねてお話を伺いたいと思います。どうぞ。

○星委員

はい。星でございます。機会をいただきありがとうございます。

今回臨むにあたって、資料を拝見して、どういったことをお話ししようかなと思っていたところでしたけれども。皆様から私が考えていたことを上回ったご意見が出る中で、なかなか何も申し上げることがなくなってしまったかなと思っておりました。

先ほど山縣委員がおっしゃられた、高齢の方が実際に体を動かすのはちょっと限界があるっていうのは、私もちょっと感じています。例えば親がこどもを祖父母のところに連れて行くと、連れて行く前は孫が来るのをすごく楽しみにしているけど、実際来ると相手をするのにも2~3日で疲れてしまって、もう早く帰って欲しいみたいなことって結構あると思うんですね。さっき、まさに山縣委員がおっしゃったような、高齢の方は口頭でアドバイスをするような立場で関わっていただいて、実際に体を使って指導するのは学生さん、ある

いはこのプログラムに未就学児として参加した人が、いずれは自分が教える立場になって参加してもらうという形がいいのかなと思いました。

今回予算措置もされるということですが、自治体は、1つの事業にずっと予算をつけ続けることが難しい面もあるかもしれないと思っておりまして、いろいろな新しい課題があつて、常に新しいことに対応していかなければならぬという中で、事業の見直しなどは、どうしても避けられないと思います。いずれ予算措置に関わらず自走していくようなシステムにしていくのが望ましいと思いますので、習ったこどもたちがいずれ教える側の立場になるというのが、1つ方法としてあるのではないかと思いました。

教える立場になるという意味で言うと、特に男性が若いうちに小さい子の面倒見る経験が疑似的な育児体験みたいなことにも繋がるのかなという気もいたします。もちろん新生児を扱うのと未就学児とはまたちょっと違うとは思うんですけども、ただそういった疑似体験が若いうちにすると、特に男性の育児に関与するハードルは下がるのではないかなど。そういうことが、少子化の解消などに繋がっていくといいのかなと思いました。以上でございます。

○松浦会長

はい。どうもありがとうございました。

その他についてはいかがですか。山縣委員どうぞ。

○山縣委員

今の件なんですが、福田委員も言われたように、ぜひ勉強して、こどもたちに指導したいという人のために公募していただけませんか。そうすると、平等にしたい方が、参加してくださるんじゃないかなと思いますが。

○松浦会長

はい、課長どうぞ。

○事務局（佐々木課長）

ありがとうございます。先ほど福田委員からおっしゃっていただいたようにいろんなところで、情報発信をして皆さんに関心を持って声を上げていただくっていうところはすごくありがたいと思っているところです。

この案を出すときに課題として思っていたのが、お願いさせていただく組織がある程度、公的に認められていたり、一定の保証があるところじゃないと難しいのかなと思っております。そういう意味で、すでに地域で活動していらっしゃる地域体育協会であったり、地域のスポーツチームであったりっていう団体を想定しているところです。公募で無条件に

っていう話になると、応募のあった方たちがどういった方がとかいろんなところを整理していくかといけないっていうところは、1つ課題としてあるのかなと思っています。

ただ、おっしゃっていただいたように教員資格を持っている方が協力したいとおっしゃっていただいたときには、ぜひ我々としてもお願ひをさせていただきたいと思いますので、来年のモデル事業としては、地域の組織で活動を行いながらも、気持ちのある皆さんのが一緒に参加していただけるような仕組みづくりを考えていければと思っております。

貴重なご意見ありがとうございました。

○松浦会長

今モデル事業の地域を選定してとおっしゃってますけれども、地域によっていろんな種目があるし、年齢層も違うし、それぞれ得意な分野があろうかと思います。そういうようなことを勘案しながら、地域全体が同じようなレベルでスポーツ体験ができるように、まずモデル地区を作つて検討していきましょうということだと思っています。

私自身スポーツ少年団のことでのいろいろ悩みがあったわけでございますけど、指導者の問題、暴言など、一定基準の中で収まるように指導しなきやいけない。それをどうしたらいいかということで何回か研修や講演会を開いたりはしますけれども。やはりこれは歴史の中で、地域の中で自然と醸成されていくものじゃないかなと考えています。そういったことも考えて、小学校、中学校、大学の先生方にもお世話になりながら、モデル地区の事業に取り組めば、スタートができるのではないかと思います。要は、小さくてもいいのできちんと成果を出す、ということがこの組織の力になると思ってますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

他にご意見がないようですので、私の司会は以上にして、事務局へお返します。大変貴重なご意見をいただきまして、盛り上がった会になったと思います。ご協力ありがとうございました。

○事務局（山尾係長）

ありがとうございます。松浦会長、円滑な議事進行をありがとうございました。

6 事務連絡

○事務局（山尾係長）

事務局から事務連絡をさせていただきます。

本日の会議につきまして事務局で、会議録を作成いたします。作成したものを委員の皆様にご確認をいただきますので、よろしくお願ひいたします。

7 閉会

○事務局（山尾係長）

閉会にあたり、文化スポーツ部長の桑原よりご挨拶申し上げます。

○桑原部長

失礼いたします。本日は長時間にわたり、たくさんの貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

松江市のスポーツ推進を進めるに当たり、いろいろなご提案をさせていただいたところですが、たくさんの貴重なご意見をいただき、本当に宝の山だなと思ったところでございました。今日の審議会は非常に胸が熱くなる会だったなと思ったところでした。

今日いただきましたご意見につきましては着実に進めていくように、本市としても取り組んでいきたいと考えておるところでございます。引き続きのご指導をお願いさせていただきまして、閉会のあいさつとさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○事務局（山尾係長）

以上をもちまして、令和7年度第2回松江市スポーツ推進審議会を終了いたします。ありがとうございました。

[15時00分閉会]